



お披露式の様子（GREEN×EXPO 2027の開催会場近くの中屋敷保育園の年長組（5歳児）のこどもたち）



大学生 × 市内企業 × 海軍道路の桜 = 暑さ対策になる晴雨兼用傘が完成！

環状4号線（海軍道路）の桜は、年々健全な木が減少しており、樹木の専門家により倒木の危険性があると診断され、やむを得ず撤去された桜は、上瀬谷のまちづくりやGREEN×EXPO 2027に寄与する取組などに利活用しています。

その一環として、GREEN×EXPO 2027に向け若者たちが地球環境にやさしい社会の実現を目指すヨコハマ未来創造会議において、神奈川大学の学生と市内企業の株式会社ダイイチが連携して実施した暑さ対策製品を開発する実証プロジェクトに、海軍道路の桜の枝を提供しました。



【サーモカメラでの比較】
傘使用時は、温度が下がることが確認できました。

この実証プロジェクトにおいて、リサイクル率の低い紙パッケージと横浜市水源林の未利用間伐材をアップサイクルした「紙糸」で傘生地を織り、学生のアイデアをもとに、海軍道路の桜の枝に含まれる桜色の色素で染色した晴雨兼用傘の試作品が製作されました。

桜をモチーフにした装飾も加えられ、地域に愛された桜を新たな形で継承したいという想いが込められています。

■お問い合わせ先 横浜市脱炭素・GREEN×EXPO推進局 上瀬谷整備事務所 上瀬谷整備推進課
〒246-0003 横浜市瀬谷区瀬谷町5810-6
電話:045-900-0594
E-mail : da-kamisui@city.yokohama.lg.jp

過去のニュースも
ご覧いただけます



旧上瀬谷通信施設地区 まちづくりニュース

旧上瀬谷通信施設地区で進めているまちづくりの状況をお知らせするために、「旧上瀬谷通信施設地区まちづくりニュース」を発行しています。GREEN×EXPO 2027やその後のまちづくりに向けた工事進捗状況等をお知らせします。

主な工事の進捗状況



③植栽・園路等の整備（公園区域）

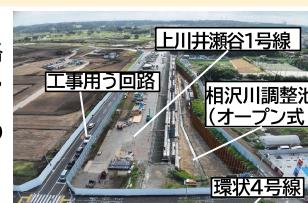
GREEN×EXPO 2027会場となる公園区域内では、園路の整備や樹木の植栽など、基盤整備を着実に進めています。

相沢川や和泉川周辺では、専門家の助言を踏まえ、多様な生物の生息環境を保全しながら、里山景観の再生を進めています。

また、新たな桜の名所づくりに向けて、これまでに約30品種・400本の桜の植樹を実施しました。



【①相沢川調整池（地下式）の工事状況】



【②上川井瀬谷1号線等の工事状況】



【③園路と桜の植樹の整備状況】

④瀬谷地内線の整備

相鉄線と交差するアンダーパス部周辺の擁壁工事のほか、全区間で工事に着手しています。



【④瀬谷地内線の工事状況】

⑤目黒交番前交差点立体化

環状4号線を立体化するための橋りょう整備を進めています。

現在、基礎杭工事が完了し、橋桁製作を進めています。



【⑤工場における橋桁製作状況】

⑥八王子街道の拡幅工事

全区間で拡幅工事を進めていますが、特に、渋滞が発生しやすい目黒交番前交差点の前後区間の拡幅工事を先行的に進めており、令和7年11月に一部供用開始を目指しています。



【⑥目黒交番前交差点の拡幅整備状況】

都市計画の検討状況

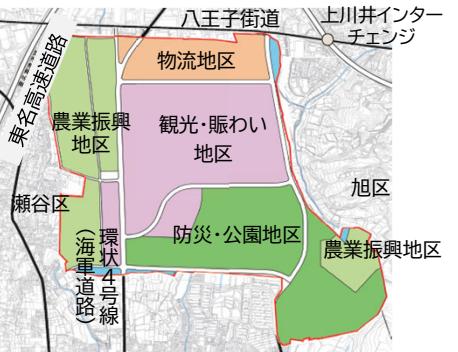
旧上瀬谷通信施設地区のまちづくりの方針や、土地利用の考え方をとりまとめた土地利用基本計画(令和2年3月策定)や、デザインノート(令和5年2月策定)を踏まえ、4地区の「土地利用の方針」を地区計画に定めます。

また、物流地区については、施設計画の調整が整つたため、緑地の設置や建物の用途の制限などの、土地利用に関するルールをあわせて定めます。

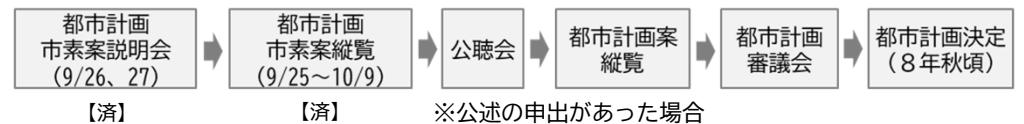
令和8年秋頃の都市計画決定を目指します。

○ 地区計画に定める土地利用の方針（案）

- | | |
|----------|--|
| 物流地区 | ▶ 新技術を活用した次世代モビリティへの対応等を目指した基幹物流施設を立地する。
▶ 災害対応力強化や脱炭素等にも資する土地利用を誘導する。 |
| 観光・賑わい地区 | ▶ 周辺と調和したまちづくりの中心となる、テーマパークを核とした複合的な集客施設を立地する。 |
| 農業振興地区 | ▶ かんがい施設等の農業生産基盤を整備する。
▶ 企業等との連携を図り、持続可能な都市農業モデルの確立に資する土地利用を誘導する。 |
| 防災・公園地区 | ▶ 大規模災害時における自衛隊等応援部隊の拠点機能や、物資の流通拠点機能などを担う広域防災拠点を形成する。
▶ 既存樹木や地形等を生かした水と緑の環境を形成する。 |



○ 都市計画手続の流れ(予定)



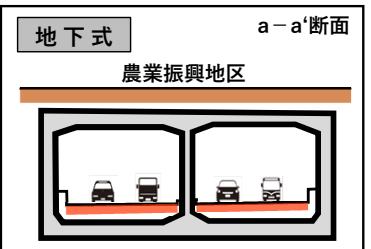
防災・公園地区に整備する広域防災拠点の機能を最大限に発揮するとともに、市民の暮らしや経済の活性化に繋がる安定的な物流の確保を目指し、東名高速道路と旧上瀬谷通信施設地区を直結する新たなインターチェンジの整備に向けた検討を進めています。

このたび、右にお示すとおり、道路の線形や、構造等の施設計画案がまとまりました。今後は、環境影響評価の手続きを進めるとともに、年度内に都市計画手続きに着手していきます。

Q: どんなインターチェンジになるの？

A: 旧上瀬谷通信施設地区内に出入口を設け、東名高速道路の東京方面・名古屋方面に乗り降りできるインターチェンジとして計画しています。

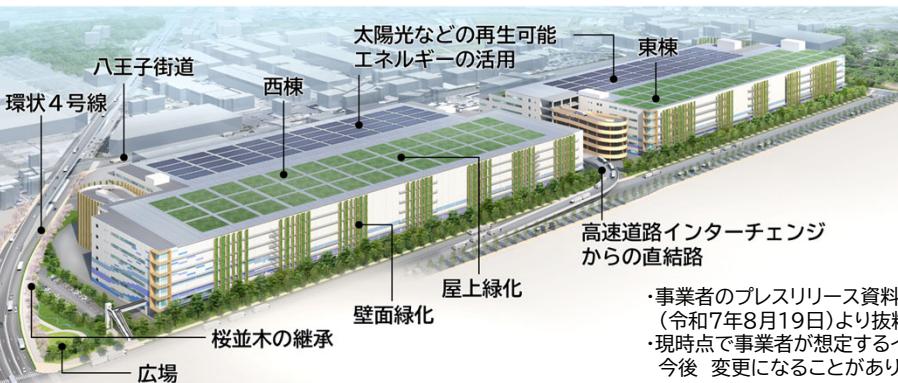
農業振興地区は、地域からの要望や環境影響評価審査会での意見等を踏まえ、営農環境への影響が極力少なくなるよう、地下式としました。



物流地区～次世代基幹物流施設～

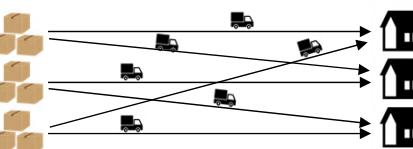
Q: 「次世代基幹物流施設」とは？

- A: ・高速道路インターチェンジからの直結路により自動運転トラックの受入れを可能とする物流施設で、同様の施設が京都府城陽市などでも計画されています。
- ・物流の大動脈である東名高速道路から新名神高速道路までの東西に「次世代基幹物流施設」が整備されることで、社会課題となっているトラックドライバー不足の解決や物流効率化、周辺の地域産業の活性化などが期待されます。
- ・整備する施設は、2050年脱炭素社会の実現を目指し、太陽光などの再生可能エネルギー等の活用を予定しています。また、壁面緑化や屋上緑化などによる多様な緑化空間の形成や、環状4号線沿いの連続的な桜並木の継承とともに、来街者や住民が憩える広場の整備なども行われる予定です。



・事業者のプレスリリース資料
(令和7年8月19日)より抜粋し注釈を補記
・現時点で事業者が想定するイメージであり、
今後 变更になることがあります

従来 別々に輸送、輸送のムダが発生



将来 物流の自動化・省人化や環境負荷低減に寄与



新たなインターチェンジ

